

■橋諸兄(葛城王)

たちばなのもろえ

八色の姓・・・684=

天武天皇没・686=2歳：

公卿。<藤原四卿没>で権力を握り、諸事業を推進するも、藤原仲麻呂の策謀で失脚した。

生。敏達天皇の孫または曾孫という栗隈王の孫、美努王の子。_母は橋三千代。光明皇后の異父兄。

・・・・・・693=9歳：

持統天皇没・702=18歳：

平城京遷都・710=26歳：_無位から従五位下に叙せられ、

・・・・・・711=27歳：馬寮監に任ぜられる。

藤原朝臣不比等の女多比能を妻とし、

藤原不比等没 720=36歳：

長屋王右大臣 721=37歳：奈良麻呂をもうけた。

聖武天皇即位 724=40歳：聖武天皇が即位すると、

累進して、

長屋王の変・729=45歳：_正四位下となり、左大弁に任命される。

・・・・・・731=47歳：_諸司の推挙により、藤原宇合、麻呂らとともに参議となり、

遣唐使9・・・・732=48歳：_従三位に昇叙。

・・・・・・736=52歳：_弟の佐為王とともに上表して、母三千代が賜わった橋宿禰の氏姓を継ぐことを請い、許された。諸兄がその臣籍降下に際して、宿禰姓のあとを継ぐべく願いでた意図は、不比等と再婚した母三千代のあとを継ぎ、その巨財の相続者となり、かつ藤原氏との縁を強化して政界に勢力をのぼすことにあったと思われる。

藤原四卿没・737=53歳：*天然痘の流行により廟堂が壊滅状態になったあと、生き残って、諸兄は大納言になった。

橋諸兄右大臣 738=54歳：*阿倍内親王の立太子と同時に正三位に叙せられ、右大臣へと躍進して政治上の実権を確実に掌握し、唐から帰国した新知識人の僧玄昉や吉備真備はそのブレーンとなり、政界の新興勢力を形成。

藤原広嗣の乱 740=56歳：_諸兄政権に対する藤原氏の反発を示した広嗣の乱に衝撃を受け、聖武天皇は東国へ避難し、伊勢・美濃国などを経て山背国にいたった。諸兄のすすめによって恭仁宮へ行幸し、新都造営を開始する。

大仏造立の詔 743=59歳：*従一位に叙せられ、左大臣に任ぜられたが、この頃から次第に台頭しつつあった藤原仲麻呂との確執が強くなる。一方、大仏鑄造に資する目的などのために、墾田永年私財法が出されたが、これに前後する一連の政策の中に諸兄政権にまつわる非律令的性格も見られる。

大仏鑄造始・747=63歳：

行基没・・・749=65歳：*正一位に累進、依然として台閣の首班の地位を確保していたが、政治上の実権は光明皇太后の信任をえた仲麻呂の手に移っており、

・・・・・・750=66歳：朝臣姓を賜る。

彼の邸宅ではしばしば歌宴が催され、大伴家持・書持の兄弟、大伴池直らが参加したらしく、その折の作品が「万葉集」にしばしばみえる。

・・・・・・755=71歳：_祇承人(近侍者)の佐味宮守に、'大臣は飲酒の席で言辞に礼がなく謀反の状がある'と密告され、聖武太上天皇はこれをとがめなかったが、

聖武天皇没・756=72歳：_辞任せざるをえず、

橋奈良麻呂乱 757=73歳：_失意のうちに没した。その直後に子の奈良麻呂らによる仲麻呂打倒計画の謀議が発覚した。